

本院患者さんへの情報公開用文書

「特発性肺線維症における線維芽細胞巢の病理組織学的解析」（後ろ向き観察研究） についてのご説明

はじめに

特発性肺線維症は緩徐ながら進行性に呼吸機能が低下する原因不明の難病です。肺には膠原線維が徐々に蓄積し、硬くなり、肺の動きは低下していきます。同時に正常な肺の構築は徐々に破壊されていき、最終的には蜂窩肺（^{ぼうかはい}蜂の巣のような肺）と言われる状態となります（図1）。この状態になるともう十分な換気ができません。このような特発性肺線維症の進行には、線維芽細胞と呼ばれる細長い細胞が^{しゅうそく}集簇した“線維芽細胞巢”が関与していると考えられています（図2）。逆に言うと、線維芽細胞巢の形成を阻害することができれば肺線維症の進行を抑制できる可能性があります。この線維芽細胞巢がどのように形成されるかは分かっていません。本研究ではどのように線維芽細胞巢が形成されるのか、患者さんの病理組織検体を詳細に解析することにより明らかにすることを目的としています。



図1: 特発性肺線維症の典型的なCT画像(蜂窩肺)

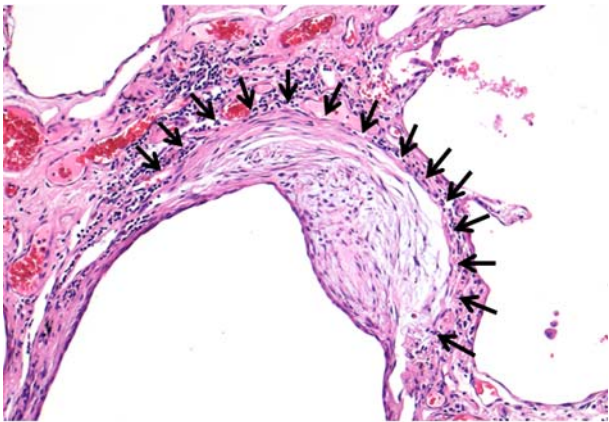


図2: 特発性肺線維症に認められた“線維芽細胞巢”

対象となる患者さん

2004年1月から2013年12月までに当院で肺線維症の診断目的に切除された、あるいは肺がんの背景病変として肺線維症が確認された50人の患者さんです。

研究内容

1. 当院での診療情報を収集し、対象となる患者さんを選択します。
2. 当院病理部に保管されている病理組織標本を再評価し、各患者さんの代表的切片 1 枚を選択します。その後、同部のホルマリン固定パラフィン包埋された組織（*既に採取され病理部に保管されています）を使用し、“線維芽細胞巣”とそれを覆う肺胞上皮がどのような異常を示すのか、どのような分子がどこに発現しているかを免疫組織化学染色という方法で調べます。

*抗体はある分子の特定の抗原と特異的に結合することが知られており、これを“抗原抗体反応”と呼びます。免疫組織化学染色はその抗原抗体反応を利用して特定の分子の発現の有無および局在を特異的に検出する方法です。

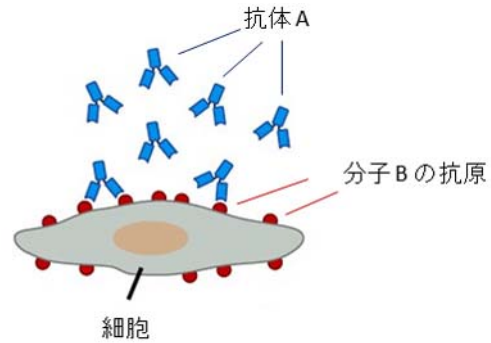


図3: 抗体Aが細胞表面の分子Bに結合する模式図

以上の方法で検索を進める予定ですので、本研究を行なうことで患者さんに新たな金銭的あるいは肉体的なご負担が生じることはありません。

患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐために、患者さん個人を特定できる情報は削除します。本研究実施過程およびその結果の公表（学会発表や論文など）の際に、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の処置について

2004年1月から2013年12月までに当院で肺線維症の診断目的に肺の一部を切除された、あるいは肺がんの背景病変として特発性肺線維症が確認された患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は下記にご連絡ください。この研究の対象から除外させていただきます。

研究期間 (病院長承認日) ~2018年3月31日

医学上の貢献

今回の研究の最大の目的は、特発性肺線維症の根本的な病変といえる“線維芽細胞巣”

が形成される機構を明らかにすることにあります。“線維芽細胞巢”が形成される機構が明らかとなれば、それを抑制する方法も自ずと明らかとなり、将来的には特発性肺線維症の進行を抑制する治療法も開発可能になると期待しています。本研究自体が直ちに診断や治療のレベル向上に寄与することはありませんが、将来的な新規治療法開発への第一歩と考えています。

お問い合わせ先

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所分子医学部門

研究責任者 佐久間裕司

平日 TEL (011)611-2111 内線 2538 (分子医学部門研究室)

休日・時間外 TEL (011)611-2111 内線 3245 (当院 11 階南病棟)

この研究の実施に際しては、当院の臨床研究審査委員会においてこの研究が科学的および倫理的に妥当であることや、当院において行うことが適当であることについて審議を受け承認を得ております。臨床研究審査委員会がどのように運営されているかを示した手順書、委員名簿および会議の記録の概要に関しても公開されておりますので、ご覧になりたい場合には、次にお問い合わせ下さい。

名称：札幌医科大学附属病院 臨床研究審査委員会

設置者：札幌医科大学附属病院長

所在地：札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 病院課臨床研究係

TEL 011-611-2111 内線 3146、3147